

## Interview with Oberliner

### 奥脇信久先生・桜井萌先生インタビュー

インタビュアー：大沢 則夫（1965 高校/1992 大中/1996 大院）

学園の卒業生であり、中高教員でもあった奥脇信久先生と桜井 萌先生にインタビューさせていただきました。インタビュー当日はホームカミングデーが開催され、多くの先生にお越しいただいたなかで学園の創成期を知るお二人に学生時代の学園の様子や安三先生・郁子先生のお人柄についてもお話しいただきました。なかなか聞けない当時の様子をお読みください。

大沢 改めまして、奥脇先生・桜井先生、本日は雨の中お越しいただきありがとうございます。私は昭和 40（1965）年高校卒・1996 年大学院卒の大沢と申します。よろしく願いいたします。

本日お二人の先生方には学園創成期の頃のお話を伺いたいと思います。当時、復活の丘には今のような校舎はなく、校舎のある景色は安三先生の「ホラ」話と言われていたと思います。その当時のことを含めてお二人にお話を伺いたいと思います。

大沢 まず、入学されました経緯を伺います。桜美林をお知りになったのは？

奥脇先生 昭和 22（1947）年の 2 月に忠生に越してきた。昭和 20（1945）年 8 月の八王子空襲で、父の実家の山梨に疎開していたが、終戦後 23 区には入れず都下ならば入れたので、たまたま知っている人がいて小山田へ引っ越してきた。山梨に引っ越した時、兄（弘久氏、2024 年ご逝去）が山梨の中学に入っていたが、通学が困難ということと、ちょうど桜美林に新制中学ができる時、3 年生に編入させてくださいと頼んで編入が決まっていた。自分は小山田小が分校だったので 5 年生から忠生小に通っていた。5 年生の時同級生が忠生から小山田に帰るときに、こっちからも帰れるというので、桜美林の敷地の中に入ったので「学校のそばまで行ってみよう」と行ったら、ちょうど郁子先生に捕まった。先生は「いらっしゃい」と出迎えてくれたが、すぐ「試験しましょう」と言ってテストされた。…すぐ合格と言われた。名前も聞かれたので兄のこともあり 5 年生だったので、母がきちんと断りに行こうと断りに行った。ところが当時は、忠生小も生徒があふれていて、小学校の授業は午前と午後の二部制で 3 時間ずつしか勉強していないから、たいしたことはしていなかった。5 年生でも 6 年生でも実際にやっているのは国語と算数で、社会などは歴史の勉強をしてはいけなかった時代。忠生小の校長が当時図師の方で、そこ

まで相談に行ったら「新しい制度になってそういうのが良いかわからないが、桜美林が入れてくれるというなら良いのではないか」と言われた。同じころ、忠生小も校内に中学校も作るということになり、小山田小も6年生になって分校ではなくなるということになった。また戻るのがいやだったので、「それでは兄と一緒に行けばよい」と親がいうのでそういうことになった。

大沢 　　当時は戦車道路から桜美林が見えましたか？見えたところは木造の校舎でしたか？山道だったのでしょか。

奥脇先生　 そうだ。当時は畑の中を通った。

大沢 　　それで郁子先生に捕まったのですね？先生は手ぐすね引いて待っていらした！

奥脇先生　 その年はそんな風に入學が決まっていた。試験の日を決めてやるということではなく集めるためだった。安三先生も書いておられるが、東京都も公立中学を作る場所がなく、前の年に都から桜美林に「三年間だけ委託中学を受け入れてくれますか」と言われていた。安三先生も生徒募集をしなくて済むと思っていたらしい。その年は生徒募集のポスターも貼っていなかったと思う。間際になって都ではなく忠生村が中学校を作るようになっており、安三先生は村が忠生小のなかに、忠生中学を作ることを知らなかったようだ。しかし、ある時安三先生がバスに乗っていたら、乗客同士が「お前のところは忠生中に行かせるのか桜美林に行かせるのか」と話をしているのを聞いて初めて、忠生中学ができることを知り慌てたそうです。それで学校に来た生徒をかき集めようされていたわけ。

大沢 　　その時入学金とか授業料はどうでしたか。

奥脇先生　 入学金はたぶんかかっていない。授業料は月額で12円だった。

大沢 　　12円？今の価値でいくらくらいですか。1円で何が買えたのですか。

奥脇先生　 当時の営団地下鉄銀座線が7銭だったと思う。次の年授業料は240円に値上がりした。その当時12円は120円の間違いでと言われたが、インフレで地下鉄も半年で7銭から1円くらいに上がった。よくお米の値段で比較されるが、当時は配給制度だったから比べられないが、、、。

大沢 　　私は高校から桜美林に入ったが、私立中学に行くなんて考えられなかった。私立はエリートや、お金持ちが行くところという認識でした。

奥脇先生 私も裕福な家庭ではなかった。当時すでに新制中学校制度に変わっていて、年齢で高校に行くことになっていたのに、そのまま桜美林高校に行くしかなかった。公立高校ならば、年齢が一年足りないのでは受けられなかったわけ。

大沢 それから下駄履いた状態で高校入学ですね。短期大学は？外部へ？

奥脇先生 高校3年の頃、当時安三先生は海外に募金に出かけていた。郁子先生も忙しかった。それで「マスタートードシードインジャパン」は本を買ったけれどやらなくて良かった。3年生の卒業式に間に合わせて先生が帰ってきたとき、本来なら親と話す内容だったが、「年齢的に3年生になったときに卒業証書を出してやるから」と言われた。

大沢 奥脇先生のお兄さんの奥脇弘久先生は自分が中学二年の時の英語の先生でしたが、弘久先生はそのまま短期大学に行かれたのですか？

奥脇先生 兄が短大に行ったのは喘息だったからだが、高校3年生の時の出席日数が少なかったかもしれない。兄はとにかく学校の先生になりたいと、そういう関係の学校を受験したいと思ったのだろうけど、体の調子が悪いから桜美林短大に行った。当時は女子が短期大学に行く人が多かったから、自分は英語ではなくて、理科や数学の勉強をしたいから短大はやめると安三先生に話しをした。

何をやりたいのか聞かれたので「農学をやりたい」と言ったら、「ソリヤよいことだ。それじゃ北海道大学へ行け」と言われた「私の実力じゃ無理です。もうちょっと下げたい」といったが「どうしても北海道大学だ」と言われ、受けるだけ受ける、落っこちてもよいと受けることに。私と同学年だった中学の卒業生の何人かは公立高校へいった。立川高校や国立高校、南多摩、厚木高校へ行って、そのうちの立川高校へ行った一人が現役で北大に受かっている。

安三先生の著書で「農村での伝道？」に書かれているが農村と農学と結びついたのではと思います。

大沢 さきほどの樽松先生の講演でも、桜美林の成績別クラス分けが話されていましたが、当時は如何でしたか。

奥脇先生 戦後の新制中学制度が変わったために入学してきた生徒の学力に差があった。それで郁子先生が「成績の良い子が理解の遅い子と一緒に勉強させられると暇ができてしまっただけ勉強しなくなるからかえって不幸だと。成績の悪い子については、ゆっくりと勉強していけば理解できるから分けたほうが良いという能力別になり中学1年の二学期からそういうクラス替えをした。

大沢 何クラスありましたか？

奥脇先生 当時 200 人くらいいたので、二学期から 4 クラス。

大沢 それでは当時は一クラス 40～50 人？

奥脇先生 そうそう。成績の良いのが 20 何人で、一学期は 3 クラスだったのかな？ 20 人くらいのクラスとあとは 50 人くらいのクラス。夏休みが終わって二学期になったら生徒がだいぶ減った。授業料かかるし、それぞれの町に公立中学できて、小学校の時の友達もそこに行っているからと辞めていった。それで A 組の人数が減って、当時私は B 組だったが、二学期が始まったら B 組から (A 組に) 誰か 5 人くらい行ってくれないかと。無茶だよ。仲の良い女子が三人くらい行くといっただので、仲が良かったから「私も行きます」と言って自分も行くことになった。二学期から三学期になるときに、ABC の中から男女合わせて 10 人くらいが、D 組になった。

大沢 安三先生は『後出しジャンケン』とも言えるユニークなネーミング語句を使われていらしたと思います。たとえば「無柵教育」という言葉も、学校の敷地の真ん中に公道が通っていて「塀」を作れないので、地域に開かれた学校と、苦し紛れの造語と拝察いたします。

奥脇先生 「無柵教育」を当時のわれわれは「無策」教育と揶揄していました。それは安三先生は予告なく突如担任の先生を変えたり、学級編成を変えたりされていたからです。戦後の草創期の試行錯誤の状況だからだと思います。

大沢 それでは、桜井先生は学校の体裁が整ったときに入学されたのですか？ 寮は最初からあったのですか？ 入学時に洗礼は受けていらしたのですか。

桜井先生 私ももともとは母の実家の福島に疎開していた。戦争が終わってこれからという時期にちょうど教会に同級生の子がいて彼女が「東京に勉強に行く」といところが聞いてきて「じゃ私も一緒に行こうか」と、その友達は骨折して学校に入学できなかったのですが、私は寮に入って寮生活をした。畳の部屋で一部屋に 5～6 人ずつだった。寮が最初からあったのか私もわかりませんが、北海道から奄美大島からいろんなところから来られていた。生徒を全国から集めないといけないから最初からあったと思う。うちはキリスト教徒だったから洗礼は入学してから受けたのだったかな？ 当時は同じ棟の二階に安三先生も郁子先生も舎監の先生も住んでいらした。

大沢 寮に入ってから三年間ですよ？建物は木造だったでしょう？校舎もそこでしたか？

桜井先生 建物は5棟あった。二階は全部図書室だったり教室だったりとか。

大沢 学校校舎と寮の住居が同居していたようですね。そのはじめ、さかい目はどのようなでしたか？

桜井先生 女子寮と男子寮があるわけですから。1棟目には女子寮があり、舎監の先生が住んでいた。郁子先生と安三先生が二棟に住んでいた。そういう感じ。

大沢 食事なんかも食堂でしたか？

桜井先生 食堂があって、そこで大きなお釜でご飯を炊いて、朝はパンで、昼はご飯でしたね。

大沢 昼食も授業が終わった後に、食べに行くのですか？

桜井先生 寮生は朝はパンでしたけど、昼食にはご飯もありましたね。

大沢 寮の雰囲気というのは如何でしたか？廊下に洗濯物が干してあったり、おぼろげながらの記憶がありますが、、、？

桜井先生 だから安三先生は本当に細かく「見えないようにちゃんと干せ」と、そういう指導までされていましたね。

大沢 安三先生のお話の中に「アイロンがけやらなくても、ハンカチなどは濡れたら窓ガラスに貼っておけ、そしたらアイロンになる」。そんな言葉が印象に残っていますが、ほかにどんな印象がありますか？

学年の構成は？

桜井先生 短大生だけは別でしたけど、後は中学生も高校生もいっしょでしたね。18畳の部屋に5~6人、机は自分で持ってくるのです。布団も布団袋に入れてチッキ（注釈\*1）で送ってくるのです。

大沢        それも福島から出てこられたことで、楽しかったのでは？その当時のお仲間の人たちと今でもつながりがありますか？

桜井先生   楽しかったですね。全国から来ていましたからね。たまにその方たちとは今だにつながりはありますが。

大沢        三年の寮生活の後、高校卒業されて、音楽の道へいらっしゃるのですよね？安三先生も音楽の才能ある人を全部チャペルアワーで歌わせていたりしましたよね？桜井先生の場合はどうだったのですか？

桜井先生   私は寮から、キャンプからのバスに乗って外国の人たちも一緒にクワイアやるのですが、楽しかったですね。

大沢        私も高3の時第九を歌わせられましたよ。それから英語のバイブルの本がありますよね。（歌う）在学中からそういう雰囲気はあったのですね？もちろん毎週讃美歌は歌うわけですが、音楽の道へはどうやって？

桜井先生   レッスンは高くて受けられなかったのですが。私はもともとピアノを弾いていたのです。とにかく遮二無二練習していて、たまに休みに帰った時に先生に「レッスンに來い！」と言われて行くと「ナニやってるんだ」と叱られましたけどね。

大沢        当時、学校にはピアノはあったのですか？

桜井先生   ええ、講堂にピアノがあってあの頃は銅線ではなく鉄線のピアノなんかもありましたね。チャペルの地下にあるヤマハ製のものが一台と、上にあるのはアメリカからいただってきたものでしたね。

大沢        安三先生は音楽ばかりではなく芸術教育に熱心だったが、そのころのお仲間になんかそういう印象のある方はいますか？

桜井先生   大原直美さん、世界で活躍されていましたね。

大沢        あの頃から安三先生は生徒をステージに上げるようなことをされていたかと。

桜井先生   郁子先生もそうでしたが、やっぱりその子のためにということで、されておられましたね。

大沢       その後母校の先生として帰ってこられるわけですがいつ頃ですか？音大へ行かれたのですか？

桜井先生   田舎の福島で希望する学校の最終面接までいっていたのですが、郁子先生から電報が来て桜美林に戻って来るよう言われて来たのです。

桜井先生   東北6県・北海道で一番の国立の教員を養成する大学で学びました。そこで安三先生から連絡が来ました。

大沢       奥脇先生は農学の道に行かれてまた桜美林に来られたのですよね。

奥脇先生   自分は高校の頃から「学校の先生だけにはなりたくない」と思っていて、農工大を出て愛知県の職員になった。大沢さんたちが高校に入学する昭和28（1953）年は生徒が倍になりあの時橋本先生が校長になった。うちの兄が朝通勤の途中、淵野辺と相模原の間で橋本校長と一緒にあって、兄の同期だった理科大出身の物理の柴田先生と、私と同期だった大江・中島というのがいて、安三先生が「二人とも東大に入れる」と言っていた中島が東大に入り、大江がICU出身で桜美林の数学の先生になった。同期のオウダが日大農獣医学部を出て生物の先生をやっていた。ところがその三人が退職され橋本先生が兄に「弟は何をやっているんだ？教職は取っていないのか？」と聞かれ、あの頃新制大学は今ほど厳格ではなく、教育実習は大学4年の11月にみな同じ学校に行っている就職内定してから二週間行き授業数は少ないが教職は取っていた。最初の年は東京に戻る気もなく断ってほしいと頼んでいた。次の年もその話がでて、兄貴に「橋本先生に失礼だから、きちんとお会いして話しをなささい」と言われ昭和39（1964）年2月ころに断るつもりで伺ったら説得されてしまった。橋本先生が安三先生のところに挨拶に行こうと二人で行ったところ、安三先生から「あれほど教員になりたくないと言っていたのになんで桜美林の教員になったんだ。」と言われた。まさか橋本先生が目の前にいるのに橋本先生に言われたからとも言えずあの時はなんて答えたかな？桜美林で教育実習をしていたら郁子先生から「あんたは教員に向いていない」と言われたはず。橋本先生に言われて就職したのは私だけだと思う。

大沢       安三先生も郁子先生も生徒の特性をご存じでいらしたのですね。

奥脇先生   当時、運転免許を持っているのが油井先生、鈴木喜久治先生、村瀬先生と私だけで、一番若く卒業生の私がよく橋本先生の運転手をさせられた。二学期から授業は午前中だけにして午後からは中学校周りに付き合った。橋本先生もそういう卒業生が欲しかったんだろうね。

大沢 我々団塊の世代で増えた時ですよ。安三先生もその辺の安三先生も計算があったのでしょうか。我々を入学させていずれ大学を作ろうという、そういう構想もあったのでしょうか。

奥脇先生 飛田先生、村瀬先生と小竹先生、この3人の先生方がいらっしやらなかったら教員は続いていなかったかも。

大沢 桜井先生はモデルになる先生はいらっしやらなかったですか？もちろんお母さんが勤めていらしたでしょうけど。

桜井先生 ほんとによい先生がたくさんいらっしやいましたよ。

奥脇先生 給料が低くなったときがあつて、安三先生は気にされていた。本当に状況が悪く、もとの年収に戻るのに三年くらいかかった。だから辞められたというのも仕方がないことだろう。

桜井先生 たくさん入学させて、20何クラスということもありましたよ。そういうことをいろいろ経て今がある。今は高校にはなかなか入れないくらい難しくなりましたね。

大沢 桜井先生の教え子で音楽の道に進んだ方はいらっしやいますか？大原直美さんはそうですね？

桜井先生 そうですね。

大沢 安三先生は夢を抱いていましたね。安三先生・郁子先生お二人の印象深い思い出は何かありますか？-

奥脇先生 生徒の時に二人だけで話したこともあるが、教員時代は数えるくらいしかない。高校一年の時、安三先生と二人きりで丸二日間話したことがある。当時生徒会長をやっていたので相談にのっていただいた。中学高校一緒に桜美林学園生徒会という形があったが、生徒総会もやっていた。中央委員会というのがあった。また、行政機関をチェックするクラス代表者協議会もあった。

写真撮影

奥脇先生 職員になった後は、礼拝の時に生徒がうるさいと学年主任に「生徒指導がなっていない」と注意されるのでした。安三先生に呼び出されて行くと「その話じゃない。最近話してないから。最近あんたもおとなしくなったな」と言われたことも。

大沢 我々は次の授業の時間が押すので、安三先生が同じ話をする時がうれしかったですね。桜井先生は安三先生・郁子先生の印象深い思い出はありますか？

桜井先生 郁子先生からアルバイトをいただいて購買のパン売りや女医さんのところの水くみ、理科の器具の煮沸などをしていろんな生徒に気を配っていたことが思い出。やはり寝食を共にしたことが大きかった。あれがなかったら桜美林に職員として来ることもなかったと思う。23クラスもあったが、辞める生徒はいなかった。

大沢 安三先生は芸術教育に熱心だったと思います。野球を始めスポーツなどの分野への挑戦を応援してくださっていました。そして、卒業生が母校に帰り、われわれ後輩への導の道を作っていたと存じます。

両先生におかれましては、ご健康に留意されお元気で過ごしていただけますことをお祈り申し上げ、本日のインタビューができましたことに感謝申し上げます。

2025年10月25日 以徳館にて

#### 【追記】

後日、奥脇先生より、在学中の思い出の詳細を『清水安三・郁子研究』誌などを参照されて、インタビュー時の補足説明文をいただきました。学園草創時の貴重な証言になりますので、また、稿を改めまして掲載させていただきます（大沢則夫）。

#### 注釈

##### \*1 チッキ

かつて日本国有鉄道（国鉄）が提供していた、旅行者の手荷物を出発駅窓口で預け到着駅で受け取るサービス、またはその預かり証（check が訛ったもの）